

絶・艶・海・快・路



掃き溜めのこがねむし

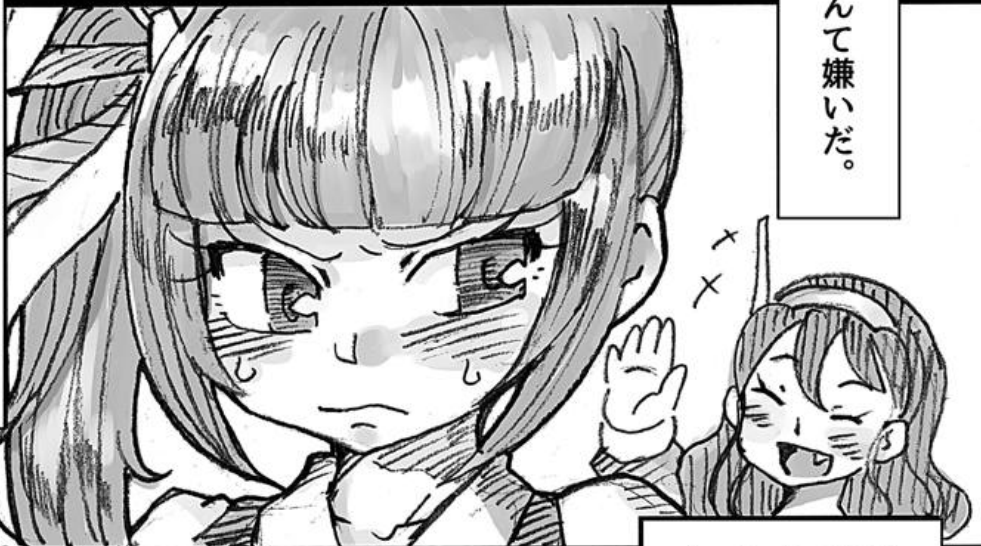
R-18



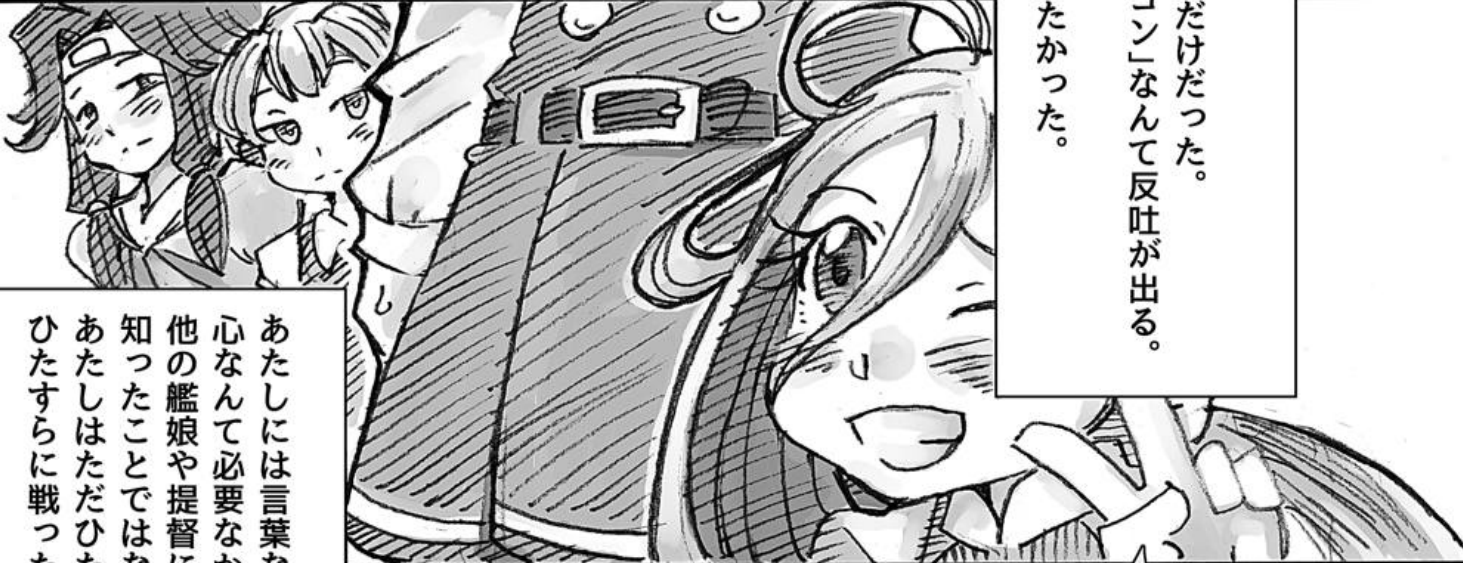
あたしは、艦娘なんて嫌いだ。



あたしはこんなものになりたくはなかった。戦うために黄泉返るのならば前世と同じ鉄と火薬の身体が欲しかった。柔らかい手やなめらかな髪や甘い声が、どうして戦うための艦かほに必要なだろうか。まして子を成すための器官なんて――。



姉妹。友人。――恋人。どれもこれもわずらわしいだけだった。おままごとみたいなの「ケツコン」なんて反吐が出る。あたしは――駆逐艦・霞は、ただ一個の戦闘単位でありたかった。



あたしには言葉なんて必要なかった。心なんて必要なかった。他の艦娘や提督に疎まれようと知ったことではない。あたしはただひたすらに鍛え、ひたすらに戦った。





そのなれの果てが

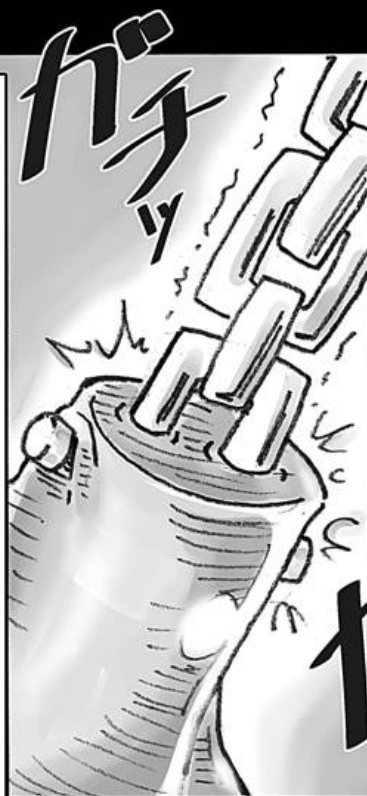
ガチッ

これだ。



クススツ……

今やこのゴムがあたしの皮であり、肉であり、骨であり、はらわたなのだ。奴らに切り落とされた腕は千歳飴のようにのっぺりした断面をさらしている。痛みはなかった。代わりに感じたのは、脳を灼くような——快感。この肉体はあらゆる刺激を性の快楽に変換してしまう。風のそよぎ。足裏にかかる自分の体重。身体を切り裂かれる感覚でさえも——。



全身を覆うゴムは皮膚スツではない。あたしの裸の肉体そのものだ。

ガチッ

随分悪アガキラ  
スルンダネ……

諦メテ ごむぼーとニ  
ナツチャエバ楽ナノニ……  
ネ? なんばー 029

ええ そうよ霞ちゃん  
この身体、とくっても  
気持ちいいのぉ♡

軍艦なんか、さっさと  
やめちゃいませうよぉ♡

龍田……!!  
……くそつ、  
なんて姿に……!!

ふん……  
そういう駆逐棲姫は  
随分必死じゃない

尻に火がついて  
今さら大慌てってわけ?

無視しろ……!!  
あれは龍田の  
言葉じゃない!!

あたしたちの身体を  
こんな風に変えてしまった  
もの——それは「銀砂」だ。  
別名「ナノマテリアル」。  
以前、別の世界から現れた  
「霧の艦隊」によって  
持ちこまれた超物質。  
深海棲艦のやつらは  
それを解析・改造し——  
伝染性ウイルスのような  
特質を持たせた。  
……戦わずして、  
艦娘を無力化するために。

その実験場選ばれたのが、  
龍田のいた南の警備府だった。

感染爆発により  
警備府は一夜にして壊滅。  
所属していた15名の艦娘は  
快樂地獄の果てに  
生きたゴム人形へと  
変えられてしまった。

ただ一人難を逃れた  
駆逐艦 早霜は、  
あたしたちの泊地に辿り着き  
助けを求めた——  
けれど、それさえも奴らの  
計算のうちだったのだ。

体内に潜伏していたナノマテリアルが  
侵食をはじめその瞬間まで、自分の肉体が  
伝染性のナノマテリアル液を撒き散らす  
汚い爆弾に造り変えられていたことに  
早霜は気づかなかつた。



一滴でも体内に入ればアウトという  
その感染能力の前に、  
南西海域最大規模のこの泊地ですら、  
成す術もなく屈した……。

艦娘の肉体に入った  
ナノマテリアルは  
体内で急速に繁殖。

毛穴や性器から体表に染み出し、  
身に着けていた衣服を巻きこみながら  
身体をゴム化させてゆく。



ゴムに変質させられた肉体は  
今まで経験したことのない  
エクスタシーを叩き込んでくる。

そこで意識を手放したが最後、  
ナノマテリアルは艦娘の  
脳をたちまち制圧し、  
肉体の舵を——  
コントロール権を奪ってしまふ。  
そうなればもう、あたしたちは  
深海棲艦の命令通りに動く人形だ。

警備府から早霜を追ってきた  
深海棲艦どもは、  
傀儡にされた艦娘たちのエスコートで  
悠々と泊地に入港した。



そして恥辱的なナンバーを  
その子たちに刻んでいった。  
艦娘としての名前を奪って……  
自分たちの奴隷である  
「ゴムボート」としての番号を……。

その時点ではまだ、  
半数以上の艦娘が抵抗を続けていた。  
意識さえ失わなければ、  
ナノマテリアルは脳を奪えない。  
けれど、すぐに知ることになった。  
耐えれば耐えるほど、あたしたちは  
地獄の深みにはまっていくことを……。



脳を奪えなかったナノマテリアルは肉体へ逆流し、  
あたしたちの肉体を造り替えようとする。  
より強い快感を感じるように——  
そのエクスタシーであたしたちの意識を  
吹き飛ばすために。

胸を肥大化させ



陰核を  
オスの器官に造り変える。



尻を肥大化させ

強く気高い心で  
抗えば抗うほど

下顎ジッパー

6連装  
生体ディルド

ナノマテリアル囊

大口径  
生体ディルド

オナホール化下顎

触手ディルド化舌

バルーン化子宮

生体ディルド化乳首

中口径  
生体ディルド

あたしたちは  
醜く無様な姿に  
変えられていった

だが思わぬ増援の出現により、事態は急変した。  
鳳翔が最後の力で一機だけ脱出させた水上機が  
近海で演習中だった戦艦・大和の艦隊に報せたのだ。



限定された基地内ではあれだけ猛威を振るつた  
伝染性ナノマテリアルにも弱点があった。  
海中や空気中では長く生きられないのだ。  
砲撃戦や航空戦の行われる距離において、  
奴らの汚い爆弾は何の有効性も持たなかった。  
ましてこの泊地を占領していた連中は、  
いわば化学兵器の実験部隊だ。  
正面戦力で最強の戦艦に勝てるはずがない。

迎撃を試みて返り討ちにされた奴らは  
尻尾を巻いて泊地に逃げ帰り、籠城戦を選んだ。  
時間を稼いで増援を待とうというわけだ。  
だけど、そうは問屋が卸さない。  
この千載一遇のチャンスを生かして、  
あたしと提督は支度をすることにした。

この泊地を木っ端微塵に吹っ飛ばす支度だ。



もともとこの泊地は

機密性の高い実験などを行うための施設で——  
その特性上、地下に強力な自爆装置が設置されていた。

装置の起動および解除に必要な暗証番号は  
提督だけが知っている。

だが奴らは、大和への対応に戦力を割かれつつも、  
あいつへのマークだけは緩めなかった。

そこであたしたちは一計を案じた。

あいつが囷となって奴らの注意を逸らし——  
暗証番号を託されたあたしが地下に走って  
自爆装置を起動させたのだ。

あいつが自分の始末を  
つけるところまでは  
うまくいった。

あたしは殺されず捕らえられた。  
今や、暗証番号を知っているのは  
あたしひとりだからだ。

自爆装置は強力だ。

起爆すれば、あたしたちは全員死ぬ。  
けれど深海の連中も道連れだ。

この忌々しい新兵器の計画も頓挫する。

そして大和の艦隊がにらみを  
利かせている以上、やつらは  
島から逃げることはできない——。

しくじったのはあたしだ。  
このゴムの身体は  
舌を噛んだぐらいじや  
死ねなかった……。

残念だけれど、起爆時間を「今すぐ」に変更することはできなかった。  
ゆえに、起爆までの時間は残り30分。

力づくで解除しようとするれば即起爆するはずだが、  
さすがに奴らもそこに引っかけられてくれるほど甘くはなかった。  
深海棲艦どもはなんとしてもあたしの意識を飛ばし——  
操り人形になったあたしの口から暗証番号を聞き出すつもりだ。

つまり、これから30分の間に一度でも気を失えば、  
ナノマテリアルに脳を奪われてあたしの負け。  
でも気絶せずにしのぎきれば……奴らはゲームオーバー。  
あたしの勝ちだ。

「はっ。バカじゃないの。」

あたしは軍艦よ。友達なんかいない。  
自軍の艦が敵に鹵獲されたから  
爆破処理する——それだけよ。

第一、あの子たちを操り人形に  
変えたのはあんたたちじゃない!!

「アノ子たちノ自我ガ消エタト

思ツテルノナラ、ソレハ間違イダヨ。  
我々ヘノ隷属ヲぶろぐらむサレテモ  
彼女ラノ人格ソノモノハ残ツテイル。  
ソレデモ……殺セル?」

「つ……。か、関係ないわ。」

あいつらのことなんて、  
元からなんとも思っていないし」

「フウン……。」

「ジャア、試シテミヨウカ」

「イイノ?」

ココガ爆発シタラ、  
君ノ友達モ  
ミンナ死ンジャウヨ

あはあ♥ 霞ちゃんだあ♥  
まだ駆逐艦なんか  
やってたたのあ……？

武蔵さん……

私たちを見てよあ♥  
こんなにあっちは  
かわいいゴムボートに  
してもらったんだよあ♥  
霞ちゃんも  
早く軍艦なんかやめて  
一緒になろうよあ

なっ……!!

きつ清霜!  
霞と陽炎まで……



「仕方ないから  
清霜が手伝ってあげるねっ。  
本当はえっちなくせに、  
霞ちゃんって素直じゃないんだから」  
「清霜……何する気……」  
「あはあ……霞ちゃんのおちんぽ  
おっきくてかわいい……」  
「ひあっ！ やっ、やめ……!!」  
（違う違う違う！ 惑わされるな！  
こんなの清霜じゃない！ 素直で  
戦艦にあこがれてたあの子じゃ……）



霞……いつも守ってくれて  
ありがとう……  
今日はお返しに……霞が  
気持ちよくしてあげるから……

霞のおっぱいにも  
ピアスつけたげるわねっ

コシすっこのよ●●  
穴開けられたところが  
新しいオマンコになって  
犯され続けてるみたい  
感じるの●●



あぁあぁ  
あぁあぁ  
あぁあぁ

陽炎の言葉は  
正しかった  
金属リングが  
肉体を買ったび

凄まじい快感が  
脳を買いていった



霞……可愛い●●  
すごく可愛い……●●

あたしたちは  
霞のことをこんなに  
愛してるのに

霞ちゃんは  
清霜たちを殺して  
平気なの？

「その子たちに……心にもないこと、  
言わせてんじやないわよ……。  
清霜にも、霞にも、陽炎にも……  
あたしはいつも……ガミガミ  
怒鳴ってばかり……。  
休むな、遊ぶな、テキパキ動けって。  
嫌われこそすれ、そんなあたしが  
好かれてるなんてこと……。  
万に一つもあるわけ、ないわ……」

「霞ちゃん。それは違います」



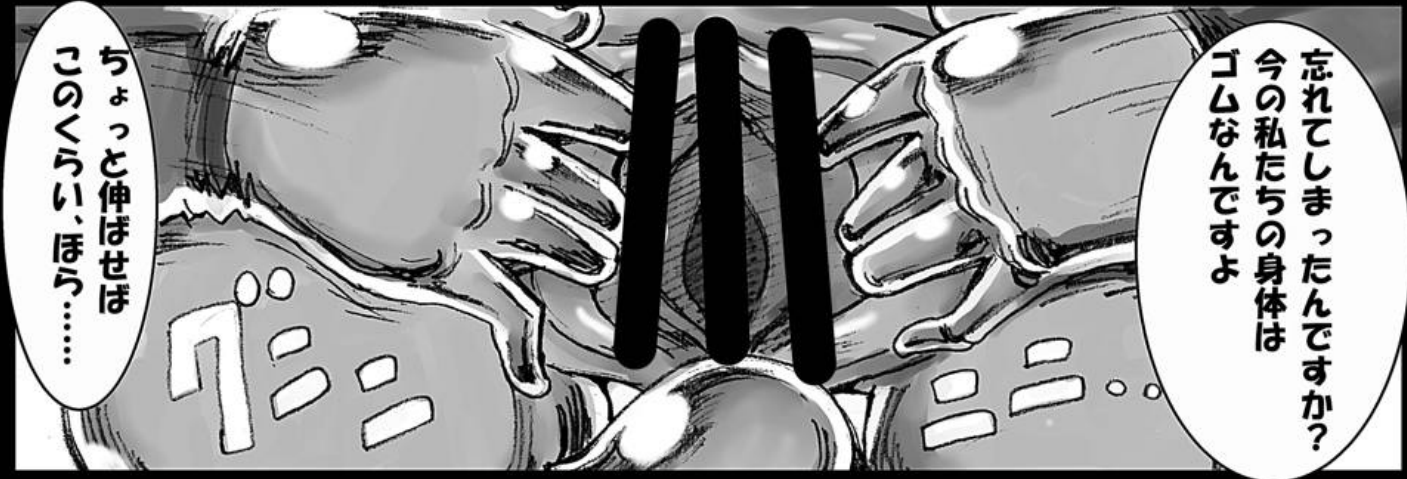
みんなわかっていましたよ

霞ちゃんが  
みんなのために  
憎まれ役を買って出て  
くれていたことくらい——

大淀ツ——

あ、あたしは  
そんなつもりじゃ……って！

な、何してんの!?  
そんなデカイの  
入るわけな……



忘れてしまったんですか？  
今の私たちの身体は  
コムなんですよ



ねッ♡

「マダ耐エルンダ……  
ナカナカ頑張ルネ  
ジャアヤツパリ  
コノ子ヲ使ワナキヤ  
ダメカナ」

凌辱を終えて去った  
大淀たちの代わりに  
今度はガラガラと  
台車を転がす音が  
近づいてきた。  
やがて、  
あたしの前に姿を  
現したのは――



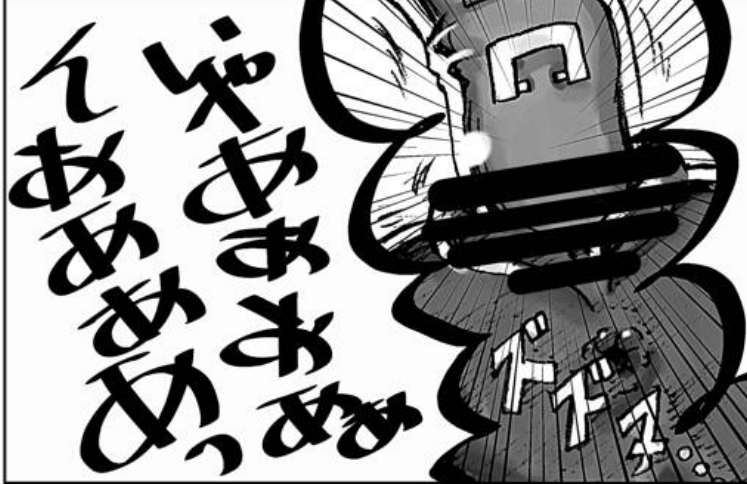
し  
不知火



あの凛々しかった  
不知火が――  
こんな……  
こんな姿に――

「全身ヲ一本ノ生体でいるとニ  
成形シタ特製ゴムポート……  
コレヲ君ニ クツツケテアゲル」  
く、くつつける？  
こいつ、何を言っ……まさか  
いや いや そんな……!!

うおおおおお  
やめろやめろ  
やめてえんえん



奥深くまで挿入されたモノが  
不知火の肉体と癒着しはじめた  
瞬間——ほんの一瞬だけ  
不知火の記憶と思考が  
怒涛のように流れこんできた

「霞は自分から……  
キツイことばかり背負いこむから……」  
「あたしたちでなんとか  
フオローしたげたいとこなんだけど」  
「霞自身がそれを望まないでしょう  
プライドの高い艦ですから」  
でも、本当に霞が潰れそうになったら  
不知火が殴ってでも休ませます」



「不知火さん。お慕いしていました……  
あなたのこと、ずっと……」  
「……あ、ありがとうございます、早霜。  
ですが、私は……」  
「……霞さん、ですか」  
「はい……」  
「ふふ、困りました。  
それではどうやら勝ち目はなさそうです」

「霞の進水日にメッセージカードを  
渡そうと思うのです。  
日頃の感謝を伝えるために……」  
「ああ、それはいいな。  
俺からみんなに回しておこう」  
「霞ちゃんには秘密だよ！  
びっくりさせたいから！」



コノカード、  
なんばー092ガ  
最新マデ手放サナカッタ  
モノナンダヨ

愛サレテルツテ幸セダネ  
マアソレモ アト5分デ  
何モカモ灰ニ  
ナツチャウケド

君ノ セイデ

——っ……  
あたしは……  
あたしは——



あたしは艦娘なんかになりたくなかった。  
姉妹。友人。——恋人。  
どれもこれもわずらわしいだけだった。  
言葉なんて必要なかった。  
心なんて必要なかった。

憎しみには耐えられても、  
愛には耐えられないから。  
自分が愛されていると知ってしまったら  
もう冷徹な兵器として  
振る舞えなくなってしまうと  
わかっていたから——。

……029856278922758  
987462528230393……  
885628383489272 よ……

みんな、提督……。  
ごめん……。

ダッテサ

間コエタ？

え？

!!

霞……

なぜだ……  
俺は、お前を

てっ提督!!  
あんた、生きて……

待って……  
待って待って  
待って!!

違うのッ  
説明させてッ  
これは……

信

じッ

ホッ  
ッ  
ッ

あああああああ  
あああああああ  
あああああああ





「ゴムボート」への改装が完了しました!

泊地完全制圧ヲ確認  
増援到着マデ防衛ニ専念

敵「ヤマト」艦隊ニ  
突破サレル可能性  
4ぱーせんと

……ドウヤラ コレデ  
ちえつくめいと ダネ



君たちガ私たちミタイニ  
意識ヲ群体化シ  
並列でーたりんくヲ実装シテレバ  
結果ハ違ツタカモシレナイネ  
デモ 満足デシヨウ?

君たちハ「個」ヲ  
トテモ大事ニ スルモンネ

アラユルこみゆにけーしよんヲ  
封ジラレタ君たちハ イマヤ  
完全ニ外界カラ絶縁サレタ「個」ダ  
閉ジタ思考回路ノ中デ  
ドコニモ届カナイ叫ビヲ  
アゲナガラ 出番ヲ待ツトイイ



コレカラ陸生人類ヲ  
支配シテイク上デハ  
「あめ」モ要ル

おもちゃ  
性具ノごむぼーとハ  
猿たちノ鬱憤晴ラシニハ  
ウツテツケダロウカラ

絶・縁・海・路 — 終

# 没カット紹介

ネーム修正の結果、本編中に収録できなかったカットたち。

## 表紙没案



霞、日常のシーン



登場(予定)艦娘リスト



不知火と早霜



霞、失恋の図



十七駆と明石、  
坊ノ岬沖組は結局  
登場させられず。





ゴム化  
霞・黒潮・早霜



ゴム化する  
陽炎





ゴム化する霞改二

## 奥付

絶・縁・海・路

発行日 2016年8月13日

初出 コミックマーケット90

発行者 掃き溜めのこがねむし

(metamorgirl@hotmail.co.jp)

印刷所 株式会社栄光 様



